

北海道各地から産出する黒曜石
その1

あさひかわちいき

旭川地域

(Asahikawa Area)

旭川地域でも黒曜石を採取できます。ただし堆積物中から見つかる二次的な産地になります。高砂台の山をつくっている砂礫層(鮮新世の高砂台礫層)から見つかる黒曜石の円礫は、表層に水和層が発達し、白濁しています。しかし断面は、綺麗な漆黒色で他の礫と簡単に区別できます。この砂礫層は、南側の富沢地域にも続いており、そこでも採取可能です。これらは旭川Ⅰ組成グループに属します。ちなみに地層中に他の礫と一緒に黒曜石が含まれる場合、白濁することがほとんどです。

春光台にある砂泥質の地層(鮮新世の高砂台礫層)からも、少々扁平で丸くなった黒曜石が見つかります。表層が不均質に溶け、手で触ったとき引っ掛かるような感触があります。断面は、同様に綺麗な漆黒色をしています。外観は違いますが、これも旭川Ⅰ組成グループに属します。つまり、双方の台地から見つかる黒曜石は、元は同一の黒曜石の溶岩からできたことが分かります。

同じ春光台の地層からは、全体が灰色をして内部も灰色をした黒曜石も少量見つかります。結晶を多く含み、晶子が少ない黒曜石で、これらは旭川Ⅱ組成グループに分類されます。他に、真っ黒ですが表面がツルっとして、まるでガラスが一度高温で溶けて再度固まったように見える黒曜石も見つかります。光にかざしてみると、内部が透き通っているのが分かります。これは北空知地方で見つかる滝川組成グループに属します。

以前、測定したK-Ar(カリウム-アルゴン)法による年代測定では、旭川Ⅰ組成グループの黒曜石から 3.87 ± 0.19 Maの値が得られました(向井・和田 2002)。約368万～406万年前にできた黒曜石が、その後、石狩川などによって上川盆地に運ばれ、一部の黒曜石は、更に神居古潭峡谷を通過して北空知一帯にも堆積したことが分かります。他の2種類の黒曜石もほぼ同時代のものと推定されます。今後、噴出源を探索する上で重要なデータとなっていますが、現在までにその噴出源は不明のままです。(学芸員 向井 正幸)



旭川Ⅰ組成グループの黒曜石



旭川Ⅱ組成グループの黒曜石



滝川組成グループの黒曜石



地学 Sheets

Asahikawa City Museum

旭川市博物館HP

